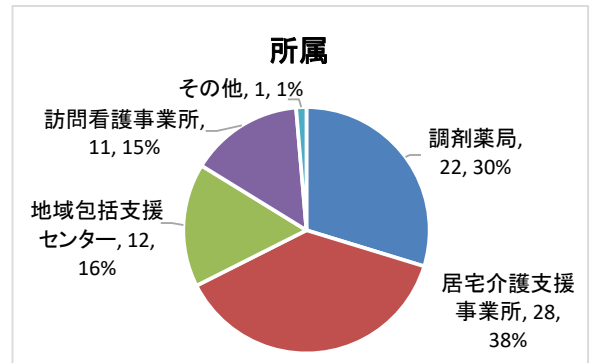


令和8年度 薬剤師と介護事業所との合同研修会

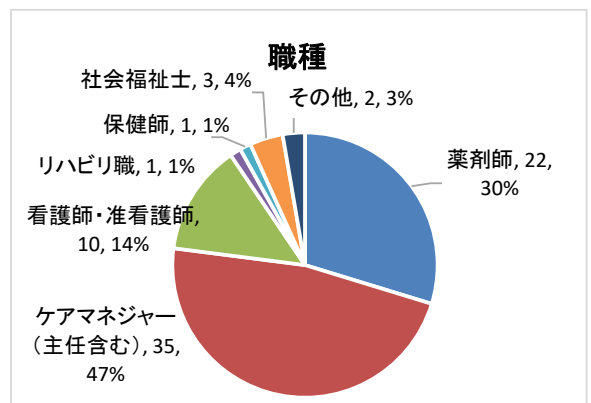
令和8年7月23日(木) 19:00～20:30 会場:にこ・ふる

【アンケート結果】 アンケート回収率:約89%

1.所属	参加人数	アンケート回収
調剤薬局	24	22
居宅介護支援事業所	28	28
地域包括支援センター	13	12
訪問看護事業所	12	11
その他	6	1
合計	83	74



2.職種	参加人数	アンケート回収
薬剤師	24	22
ケアマネジャー(主任含む)	36	35
看護師・准看護師	11	10
リハビリ職	1	1
保健師	2	1
社会福祉士	3	3
その他	6	2
合計	83	74



3.研修会の満足度	大変満足した	満足した	どちらともいえない	やや不満足	不満足	未回答
調剤薬局	10	10	2	0	0	0
居宅介護支援事業所	7	21	0	0	0	0
地域包括支援センター	7	4	0	0	0	1
訪問看護事業所	2	8	0	0	0	1
その他	1	0	0	0	0	0
合計	27	43	2			

3.研修会の満足度の理由

調剤薬局	大変満足した・満足した	多職種と意見交換できた。 ×5
		面識のある方が増えた。
		職種それぞれ薬で困っていることがあることを知ることができた。
		各職種の要望など知ることができた。
		問題が見えてきた。
		薬の情報共有において、今すぐにできること、この先やっていきたいことを明確にできた。
		お薬手帳を有効活用して、残薬状況を多職種で把握したいと思った。
		目的をもってディスカッションできた。
		成果を得られた。
	えとど なもち いいら	限られた時間でのグループワークの難しさを感じた。
居宅介護支援事業所	大変満足した・満足した	薬剤師と話ができたため。 ×3
		薬の内容 薬の服用時間、効能 お薬の飲み忘れに対する対応策 薬剤師の多様な取り組み 薬剤師の思い(ケアマネと連絡を取りにくい) について聞けてよかった。
		困りごとの共有や意見交換ができよかった。 ×2
		職種によって支援の視点や気づきが違ったことがありとても学びにつながった。
		それぞれの職種が実感している課題が聞けて、自分でもできることがあるなあと思った。
		「薬剤師が医師と本人・家族の間に入って調整できます」という言葉があり、ありがたいと思った。
		既存のお薬手帳を使用した解決策が見えて大変良かったと思う。
		連携の仕方、明日からできることを共有できて良かった。
		一つの問題を解決する方法を考えるという研修は良かった。(雑談で終わらない)
地域包括支援センター	・ 大変満足した ・ 満足した	困りごとの共有や意見交換ができよかった。 ×3
		毎回困っていること、疑問点、利用者さんからの質問にうまく答えられなかったことを教えてもらえ助かる。
		服薬について様々な支援方法を学ぶことができた。
		もっと意見交換の時間があると良い。
		音響の聞き取りにくさ。内容が盛りだくさんすぎるかと…
訪問看護事業所	・ 大変満足した ・ 満足した	多職種と意見交換できた。 ×2
		様々な立場での困りごとを知ることができた。 ×2
		薬剤師の話が聞けて参考になった。 ×2
		薬の管理、残薬の整理など薬剤師の方にたくさん教えてもらえてよかった。
		参加したことでいつでも薬局に連絡してもよいことを知った。
	未回答	薬局から、薬情やお薬手帳に変更時はラインをひいてもらうことでわかりやすくてできる。介護サービスからは名刺を入れる、メモにコメントする、困ったときは電話するなど。今後の行動につながる話し合いができた。
その他	足大 し変 した満	いろいろな方が話している場を回れて、生の声を聞いたのが良かった。実習中でもケアマネ、訪看目線のことはあまりわからないので、大変興味深かった。

4.研修会に参加して「気づき」は？

調剤薬局	どの職種にも共通した悩み、独自の悩みがあるとわかった。情報の積極的な共有が必要だと改めてわかった。
	他職種の人がどんな情報を求めているか。
	薬剤師と同じくらいケアマネも医師に報告していることに気づいた。
	薬局で連携できるツールがそもそもなかった。
	共通プラットフォームを作りたい。
	LINE WORKSを知った。
	LINE WORKSは薬局を入れてもらっていない。
	多職種での情報共有がスムーズにできれば良いのではと思った。
	情報共有が難しいと感じました。お薬手帳を活用するのも1つの案で連絡がつけるようにしたい。
	情報共有の現状を知れた。今後情報共有を進めるためのツールについても理解を深められた。
	やはり顔の見える関係
	お薬手帳に名刺を入れて、関わっている各職種の顔が見えるようにしたい。
	患者さんに関わる人々の情報について名刺等を診察券のように一覧で分かるように持参してもらうようにすると便利だなと。
	Net4Uを活用するには招待してもらわないといけないのでそこがネックになっている感じがする。
	薬局でできることが理解されていないことがある。
	薬局がどの程度介入できるのか、逆に介護事業所がどの程度介入してくれるのか、互いに認識に差があること。
	もっと薬剤師を活用してほしい。
	訪問看護から、患者さんが待っている間に問診表などを用いて「薬カレンダーを利用している」「飲みにくい薬がある」などのアンケートを定期的に聞いてみてはどうかと提案いただいた。
	要支援の患者さんが意外と問題あるのが理解できた。
居宅介護支援事業所	グループワークでは解決まではいかなかったが、困ったことを聞くことができ、薬局としてどう対応したらよいか気づくことができた。
	今からすぐにできることに取り組み、方法も含めて拡張する。
	それぞれの考えを理解できて、これまでより介入できそうなことを把握できた。
	薬局側も情報がほしいのだと感じた。
	医師への情報提供は意識して行っていたが、薬剤師との連携も意識して行っていきたいと思った。
	多職種連携が重要。
	情報をどのように共有するか。
	薬剤師は在宅での内服状況を予測して処方する立場のため、現場での状況を教えてもらいたいといった連携。
	なかなか薬局と直接関わる機会がない。LINE WORKSに薬局も入れたら薬剤管理指導などプランに入れやすい。
	情報共有ツールの活用の仕方
	ツールの使い分けが必要ということ。
	お薬手帳の活用 ×2 お薬手帳はアナログだが本人も参加できる1番の情報共有ツールかと思う。
	チャットワークは初めて聞きました。
	薬剤師からのアドバイスや提案が具体的で参考になった。
	薬剤師に相談して良いこと。 ×3 小さいことでも相談してほしいと言ってもらってとても安心した。

	残薬管理が強化されていたことを知った。 薬剤師との距離感が近づいた。 同じような悩みを抱えていること。 ×3 各職種の困りごと、それに対する対応方法を考えることができた。 顔の見える研修会は必要と感じた。
地域包括支援センター	連携の取り方、方法に改善点がまだまだある。 いろいろなツールがあるのに、全部がつながるのは難しいよう。 情報共有の方法はたくさんあることに改めて気づいた。連携ツールがたくさんある中でお薬手帳は有能だと感じた。 お薬手帳を有効に活用することで解決できることがあった。 薬局は情報が集まりにくく、情報をもっとほしいと考えている。電話でもサービス担当者会議でも、チームの中に入っていきたい。 困ったときの相談のチームに薬剤師も入れたい。 薬剤師に相談してみたい。 ×2 飲み方、回数などについて 利用者からの質問、困ったことについてケアマネ1人で悩まない。 気軽に電話していいという薬剤師も多くいると聞き、ちょっとした疑問も聞いてみたいと思いました。 すぐにできる解決策を多職種で共有できた。 まず、今日からやれることを共有できた。薬局とのやりとりはとても大事。連携が大切。
訪問看護事業所	薬局に情報提供することが十分にできていなかった。 薬局がLINE WORKSを使用していないこと、Net4Uなどを活用することを知った。 多職種内で双方のやりとりが行えるツールの活用 情報共有できるプラットフォームが必要。 薬剤師に相談して良いこと。 ×3 薬の調整などは医師に直接でなくともいい。 薬局に忙しくて電話しにくいと思ったが、ぜひ電話してと言われてハードルが下がった。 残薬にみなさん悩んでいることに気づいた。
その他	薬局にいと当たり前になってしまっていた薬のこと(飲み忘れたらどうする?とか)意外と他職種の方は困っているんだなと思った。

5.研修会に参加して取り組んでみようと思ったこと

調剤薬局	お薬手帳・薬情での情報共有、処方の変更点の記載・マーカーなど ×16 すでに行っているが継続したい ×2 お薬手帳へ連絡先を入れる、シールを貼る お薬手帳の推進 ケアマネジャーへの積極的な連絡 ×2 情報ツールの活用 訪問薬剤師のできることをもっとアピールしていきたい。 LINE WORKSを薬局も入れてもらえるよう市の担当にかけあってみよう。
------	--

居宅介護支援事業所	お薬手帳に名刺を入れること ×9 すでに行っている ×1
	お薬手帳に名刺が入っているかの確認。
	自分のお薬手帳から記入してみる。
	薬剤師への情報提供・共有 ×3
	薬剤師への相談 ×3
	薬情報の確認 ×2 お薬手帳は毎回訪問時に見ることがないが、薬の変更がないかモニタリングで確認していきたい。
	変更になった薬等に何のために変わったのか記載したりしたい。
	残薬をなくすための方法(時間を見直す、薬剤師・医師に相談する)
	どのように薬を飲めるようにするか。
	かかりつけ薬局を把握。
	問題を自己解決しようとせず、多職種連携を図り、最善の方法を導けるようにしたいと思う。
地域包括支援センター	お薬手帳に名刺を入れること ×3 事業所内でも共有していきたい。
	お薬手帳の活用 ×4 情報を挟む。 お薬手帳の内容をより深く理解する。活用の仕方を再度見直す。
	お薬手帳の確認。×2 記入できるところは記入を薦める。
	薬局への連絡 ×3 電話でもサービス担当者会議でも、積極的に参加してもらえるよう声をかける。困ったことは質問する。 薬局への問い合わせがしやすくなったと感じている。積極的な連携を日頃の業務へ活かしていきたい。
	多職種連携を重視しての業務
	残薬にもモニタリングで気を配る。
	最寄りの薬剤師との関係づくりが必要と思う。
訪問看護事業所	お薬手帳の活用 ×5 残薬状況の記載 ×3 名刺や事業所連絡先がわかるようにする。 お薬手帳をもっと見る。
	お薬のことを利用者さんにもっと聞く。
	薬局への連絡 ×3
	様々な環境を一斉に変更できないので、訪問した時の情報を多職種に提供できるようにしていく。
	サービス担当者会議にも薬剤師に参加していただいてもよいのかなと思いました。
	Net4Uなどの活用
その他	お薬手帳とか薬情とかに変更点を目立たせる！は私もできるので、マーカーしたりご家族にも伝わりやすくて良いなあと思ったのでやります！

6. 次回の研修会を企画するにあたり、希望のテーマや話し合いたいことの希望、やり方などのアイデア

調剤薬局	各方面の方々とお話できるのでまたやってください。
	ケアマネ、ヘルパーがファシリテーターとなるような企画を行ってみたい。
介護事業所支援	薬剤師の方が入って服薬状況が改善した事例など実際の事例についてお聞きしたい。
地域包括支援センター	今回のような内容のその後という形で単発で終わらないで継続してのものもあるとよいと思いました。

7. その他、研修会についての要望など

調剤薬局	今後も続けたい。
	年2回くらいあってもよい。
介護事業所支援	できることから始めていこうと思う。
	もう少し時間を早くするか短いとありがたいです。
地域包括支援センター	毎年勉強にもなります。今後ともよろしくお願いします。